

### 3-⑬ 指導方法・評価等の工夫・改善

#### 他者とつながるコミュニケーション能力の育成

上越市立大町小学校 中島 秀晴

##### 1 研究の視点に関する実態

社会のグローバル化，新学習指導要領への移行期を迎えている今，学校現場では，子どもにどのように外国語の能力を身に付けさせるかが大きな課題となっており，実際に指導にあたる教員の負担や不安も大きくなっている。当校では，教師サイドの授業研究だけでなく，子どもの姿から外国語を学ぶ意義を考えたり，コミュニケーション能力の本質を考えたりしながら研究活動に取り組んできた。子どもにとって，外国語を学ぶ本質的な意義は，「わたし」と「あなた」がつながる喜びを感じたり，互いのことをより深く理解したりしながら，将来にわたり，多種・多様な人々とよりよいコミュニティをつくっていくことだと考える。

##### 2 改善のための具体的な方策と取組内容

研究活動では，教育活動全体で「他者とつながるコミュニケーション能力」の育成を学校運営の中核に位置付け，次のようなことに取り組んできた。

- ・「他者とつながるコミュニケーション能力」を視点にした外国語活動の在り方
- ・他教科，教育活動と関連した外国語活動の在り方
- ・ALTの活用と交流の在り方

研究活動では，教師一人一人のアプローチを大切に，教師それぞれが，外国語活動における「他者とつながるコミュニケーション能力」を発揮する子どもの姿を思い描き，それを具現するための方法や教材等を考え，実践した。研究仮説や共通の手立てを講ずるのではなく，教師個々の考えや主張，個性や持ち味，感覚や感性を尊重し，独自の，即興的，創造的な取組を大切にしてきた。その一方で，教師個々の方法や手立てはセッション等を通じて共有の財産とし，よいと思った方法や手立ては，誰もが使えるものとした。

##### 3 取組の成果と残された課題

###### 成果

(1) 自分のこと（思い・考え・気持ち）を伝え合うコミュニケーション活動

(2) 必然性のあるコミュニケーション活動

自分のことを伝え合う，調べたことを発表するなどの活動は，コミュニケーションの意欲や必然性が高まり，積極的にコミュニケーションを取り合う姿を生み出した。

(3) 「聞く」ことを重視した活動 —インプットからアウトプットへ—

(4) 外国語活動の日常化 —他教科・教育活動との関連—

###### 課題

論点整理で述べられている評価の観点は，「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」であり，この「主体的に学習に取り組む態度」は，他の観点にかかわる資質や能力の定着に密接に関係する重要な要素であるとされている。他者とつながるコミュニケーション能力の育成という主題から，観察を中心に子どもの姿として評価してきた。今後は，「～できる（知識・技能）」「～している（思考力・判断力・表現力）」「～しようとしている（主体的に学習に取り組む態度）」のように，評価の方向性を検討している。